対馬の資源は誰のもの？

私たちが暮らす対馬は、太古の姿を今に残す原生林や、複雑に入り組んだリアス海岸など、豊かな自然に恵まれた島です。こうした環境の中で、ツシマヤマネコをはじめとする、対馬ならではの生きものたちが、独自の生態系を育んできました。この自然の恵みとともに、対馬の人々は昔から自然に寄り添い、知恵を持って活用しながら、暮らしを営んできました。

そして今、自然と人との関わりが育んできた歴史や文化は、対馬ならではの大きな魅力となり、多くの人々を惹きつけています。観光に訪れる人も年々増え、島の魅力を体感する機会が広がっています。

一方で、人口の減少や高齢化といった大きな課題に直面しています。

「自然とともに生きる暮らしが続けにくくなり、この島の本来の魅力が少しずつ失われてしまうかもしれない――」そんな不安も抱えています。

だから今こそ、立ち止まって考えるときです。私たちが受け継いできた自然や文化をどう守り、どう次の世代へつないでいくのか。これからの対馬のあり方をみんなで一緒に考えていきましょう。

龍良山 原始林として残され、天然記念物となった山を傷付ける行為が横行している

浅茅湾 養殖や漁業など生業の場所としての海と、マリンレジャーフィールドとしての共生が課題

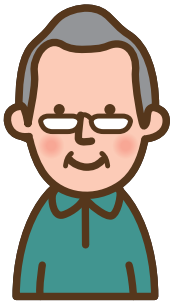
白嶽 地域の信仰の場所として人々が開いた山道が、人口減少や異常気象によって荒廃している

ツシマヤマネコ 観察者の増加による、ツシマヤマネコや地域への負担が増えている

人々の営みが、対馬の資源をつないできた

豊かな海と深い山に囲まれている対馬では、長い歴史の中で自然を生かす知恵・技術・言い伝えが培われてきました。これまでの暮らしは自然とともにあり、その結びつきが強かったのです。

白嶽は麓の集落のもんだけやなく、豆酘や阿連、根緒とか海がある町の漁師も正月には登って一年の安全・大漁祈願をしよったとですよ。



【洲藻地区 60代 男性】

嫁いできた時は、毎月姑さんがお祀りに行くのに龍良山のふもとに車で送ってましたね。あれだけの森が守られたのは、そういう人の祈りがあったからなんでしょうね。

【内山地区 70代 女性】

【黒瀬地区 70代 男性】

白嶽は浅茅湾のどこからでも見えるけ、絶対に迷わん。昔は、白嶽が霧で見えん時は、漁にも出んやったよ。

どんだけ田仕事が忙しくても、ヤマネコが田んぼから顔を出したときは、トラクターばバックさせて道を譲ってしまいます。やっぱりヤマネコは佐護の宝ですけんね。

【佐護地区 60代 男性】

【千尋藻地区 60代 男性】

このあたりでは、資源を残すために潜りはせずに、腰の高さまで浸かってのサザエ漁のみを良しとしてきたんです。そのおかげか、今でもこの地域は海の幸が豊富です。

【志多留地区 80代 女性】

小さい頃木庭作※（こばさく）やっとった時は、麦刈りしながら、キジの卵を見つけて、おやつに食べよった。ヤマネコが飛び出していくのもよう見かけたよ。

※山の斜面を農地として利用する焼き畑農法

しかし、担い手不足や生活様式の変化などにより、自然との関係性が崩れつつあります。

観光の力で、資源を後世につなぐ「エコツーリズム」

観光客は、食事や体験、土産物の購入などを通じて、地域経済に大きな力をもたらす存在です。新型コロナウイルスの影響で、対馬を訪れる観光客は一時大きく減少しましたが、近年は回復が進み、令和5年にはおよそ50万人が対馬を訪れるまでになりました。この観光の力を「地域の資源を未来へつなぐ力」として生かすことが必要だと考えられます。観光のあり方をよりよいものに見直し、対馬の魅力を守りながら、新たな価値を創り出していく取り組みの一つとして、エコツーリズムがいま、動き出しています。

エコツーリズムとは？

旅行者に、地域の自然や文化に触れたり体験したりしてもらいながら、その魅力を楽しんでもらう旅行形態を指します。大人数で観光名所を回るような大型観光と違い、自然に優しい観光。それがエコツーリズムです。

世の中がバブルに沸いていたころ、大規模なリゾート開発を進めるために、環境保全に関する規制が大幅に緩和されました。その一方、地域の自然や人々の暮らしは脅かされ、バブル崩壊による開発の頓挫は、それらの影響を拡大させました。こうした反省から生まれたのが「エコツーリズム推進法」です。地域の自然や文化の、そのままの魅力を生かし、観光客にも地域住民にも優しい観光を目指そうという取り組みです。現在、全国で28の地域が、エコツーリズムを推進するための構想をまとめ、国から認定を受けています。

現在認定されている地域

（環境省ホームページより）

エコツーリズムは「環境保全」「観光振興」「地域振興」の3つの柱で成り立っています

観光振興

地域のそのままの姿が観光資源になる（プログラムづくり）

環境保全

地域の自然環境に配慮した行動をとる（ルールづくり）

地域振興

観光が盛んになることで地域が元気になり雇用も生まれる（体制づくり）

目指すのは、地域の自然とともにある、人々の暮らし・歴史・文化が守られる地域の姿！

対馬でも始まった、未来へつなぐ取り組み

10年後、100年後、そしてもっと先の未来まで、今ある対馬の豊かな自然や文化を生かしながら、この島で安心して暮らし続けていくためには、ただ守るだけでなく、少し視点を変えて、持続可能な地域づくりの仕組みを育てていくことが大切です。そうした思いから、水産業や農林業などの一次産業、そして観光に関わる人たちが力を合わせて「対馬市エコツーリズム推進協議会」が立ち上がりました。

協議会では、対馬らしいエコツーリズムの進め方を話し合い「エコツーリズム推進全体構想」をまとめています。この構想をもとに、対馬が未来にわたって輝き続けるモデル地域となることを目指し、国の「エコツーリズム推進地域」として認定を受けるべく、環境大臣への申請に向けて準備を進めています。

守り・伝え・つないでいく

観光そのものが目的になってしまうと、気づかないうちに地域や大切な資源が疲弊していくことがあります。今「観光」を、対馬の自然や産業、そして暮らしを守り「未来へとつないでいくための手段」として見つめ直し、生かしていく取り組みが動き出しています。

守る

観光の力で農業や漁業などの地域の仕事を元気にし、そこに暮らす人たちの穏やかな生活も守っていきます。自然と暮らしの両方を大切にした、持続可能な地域づくりを目指します。

伝える

対馬の魅力をしっかり伝えるガイド（インタープリター）を育て、訪れた人の心を動かすような案内を行います。また、市民の皆さんにも改めて対馬の価値を伝え「この島に住んでいてよかった」と思える誇りを育てます。

つないでいく

訪れた人と地域の人がつながり、また訪れたくなる関係をつくります。観光を通じて、地域の課題に気づき、解決へのヒントを一緒に考えていく。そんな“関わりのある観光”が、地域を少しずつ元気にしていきます。

エコツーリズム推進部会
- 全体構想の見直し
- エコツーリズムの普及促進

ガイド部会
- ガイド人材育成カリキュラム作成と実施・認定証発行

マリンアクティビティ部会
- 浅茅湾の活用ルール策定
- 環境モニタリング

トレッキングガイド部会
- 白嶽、龍良山の活用ルール策定
- 環境モニタリング

ツシマヤマネコガイド部会
- ヤマネコガイド認定
- ヤマネコ生息地域との連携

地産地消推進部会
- 地場産品の利用促進
- 認証ラベルの発行管理

対馬市エコツーリズム推進協議会では、対馬が抱える課題を５つの部会に振り分けて、解決に向けた具体的な取り組み（地域への聞き取り、ルール策定、環境パトロールなど）を行っていきます。

問い合わせ
対馬市エコツーリズム推進協議会
☎ 0920(85)1755

大地は、先祖から譲り受けたのではなく、我々の子孫から借りているのだ。

アメリカの先住民族の教えにある言葉です。対馬の豊かな大地を、より豊かな状態で私たちの子孫へ返すことができるように、今を生きる対馬の皆さんだけでなく、対馬に関心を寄せるすべての人の力を借りながら、取り組みを加速させていきます。